

特集 電源地域のサクセス・ストーリー

佐賀県・玄海町 1

危機を乗り越え 着実に歩みを進めたまちづくり

DATA PAL 玄海町 5

段階的なまちづくりで
地域の魅力が向上 6

People キーパースン 玄海町商工会 西尾達也さん 9

People ブランナー 玄海町建設課 上田市雄さん 10

People サポートします 九州経済産業局 奥田昌宏さん 11

Focus 政策・制度

「優良田園住宅」 12

シリーズ ネットワークでまちづくり

中国山地4県16市町村「県境サミット」 14

住民の交流を進め 広域連携を拡大する

徳島県・上勝町「彩(いろどり)事業」 17

葉っぱや小枝を商品化し 2億円のツマモノ産業に

Energy square

特定放射性廃棄物の処分の実施主体が設立
資金管理主体が決定 20

情報クリップ

原子力発電施設等立地地域の振興に関する特別措置法成立 22

地球温暖化防止会議（COP6）
オランダのハーグで開催 22

中部経済産業局ラジオ広報 24

電気のふるさと特産品 25

電気のふるさと



地域のひろば No.175

表紙イラスト・石川森彦

「地域のひろば」は、電気のふるさととの「まちづくり」を応援する情報誌です。

特産品開発グループ「フレッシュ会」。3年前に7人の主婦により設立。
タイの加工品「うまか鯛」は「電気のふるさとじまん市」にも出品し好評だった。



佐賀県東松浦郡

玄海町 げんかいちょう

危機を乗り越え

着実に歩みを進めたまちづくり

佐賀県・玄海町は東松浦半島の西部中央に位置する人口七千人の町です。町の西部には壱岐・対馬を望む玄界灘が広がり、美しいリアス式海岸は、玄海国立公園に指定されています。基幹幹道路である国道204号が町を南北に縦貫しています。基幹産業は農漁業で、米作、ミカンやイチゴのハウス栽培、佐賀牛などの畜産、タイなどの養殖やイカ釣り漁などが行われています。町内に立地する玄海原子力発電所は、昭和五十年に1号機、五十六年に2号機、平成六年に3号機、平成九年に4号機が営業運転を始め、いまや玄海町は、九州全体の電気の三〇パーセントを生産する、九州で最も大きな電気の生産地となりました。

生しました。昭和三十四年「玄海町建設計画」が策定され「明るい、住みよい、しかも豊かな郷土の建設」を目指すこととなりました。しかし当時は、炭坑関連の雇用が中心でしたが、石炭から石油へとエネルギーの転換が進むにつれ、石炭産業が斜陽化し、農漁業以外の就労の場が少なく、また、半島ゆえ袋小路となった地勢とも相まって、都会への就職人口流出などによる過疎化が進み、著しい人口減少が続いていました。

こうした中、昭和四十年、佐賀県から原子力発電所立地の申し入れがありました。町では、「原子力発電所設置特別委員会」を発足させ誘致を研究。住民による地域開発の議論も活発なものとなり、翌年には町議会において誘致が決議されました。生

活環境の改善や産業振興のための柱として、発電所立地に伴う財政的・経済的な期待が高まりました。そこには、まずは基本的な生活基盤として不可欠な道路・水道の整備、次いで教育・福祉の充実、さらに農業・漁業の振興、そして文化・スポーツの振興という順序で着実な歩みを進めていくという、まちづくりに対する行政の思いがありました。

発電所建設開始と同時に、これまで続いていた著しい人口減少に一定の歯止めがかかり、その後も発電所建設に伴う地域の雇用拡大や経済効果もたらされることになりました。また、住民生活の面でも、道路をはじめ簡易水道、福祉施設などの整備が加速していきました。

町民福祉の向上を 目指したまちづくり計画

玄海町では昭和三十四年に「玄海町建設計画」を策定して以降、総合開発計画の改定を重ね、現在は平成八年度からの「玄海町新総合計画」に基づくまちづくりが進められています。

玄海町のまちづくりでは、発電所の新增設を背景とする豊かな財政力がそれを支えています。

昭和三十四年、「合併により強化された行財政能力を最高度に発揮し、基礎的な地方公共団体としての健全な基盤を整えた町政運営を合理化して町民福祉の向上を期する」とともに「新町の飛躍的発展の基」とすることを目的として、「玄海町建設計画」が策定されました。その中では、「明るい、住みよい、しかも豊かな郷土の建設」が希求され、生産基盤の強化・拡充による町民所得の向上、生活文化水準の高揚および福祉の増進を主軸とする基本方針が打ち出され、「安定計画」（行政組織・行政事務の合理化、生産基盤の整備）および「発展計画」（産業振興、人的質の向上）によって、その後の発展の礎が固められていきました。

こうした計画に基づくまちづくりの結果、道路をはじめ簡易水道、小中学校プールや運動場、福祉センターや特別養護老人ホームなどが整備され、教育・福祉施設を含む生活基盤の整備が

着実に進展し、町民の皆さんの暮らしやすさへの思いがより深まりました。

中でも特別養護老人ホーム「玄海園」は、昭和五十五年、電源立地促進対策交付金を活用して近隣自治体に先駆けていち早く整備されました。近隣町村からも入所者を受け入れることとし、その後すぐに増設、広域的な高齢者福祉に大きく貢献しています。



特別養護老人ホーム「玄海園」

総合開発計画の策定

高度経済成長から安定成長へと社会経済情勢が大きく変動し、地方の自主自立を喚起するいわゆる「地方の時代」が提唱される中、玄海町では町民の皆さんを対象としたアンケートを実施し、まちづくりに対する要望を把握しました。その結果、町民

の皆さんが産業基盤の確立、生活環境の整備、教育文化施設の整備と人づくりに関する取り組みを求めていることが分かりました。

昭和六十一年、町議会議員や各種団体の代表者により構成される「玄海町総合開発審議会」での協議などを経て、「玄海町総合開発計画」が策定されました。その中では、町長の思いである「豊かで住みよい魅力と活力のある町」を基本理念として、三つの将来像が示されました。

● 蒼い海と豊かな緑が調和した活力のある産業の町

● 生活環境の充実した住みよい福祉の町

● 人間性豊かで郷土愛に燃える教育文化の町

また、こうした将来像を実現していく上で、七つの施策が示されました。

● 町発展への基礎的條件の整備（交通・通信、町土の保全、土地利用、水資源）

● 快適で安全な生活環境の創出（上下水道、環境衛生、公園・緑地、住宅、消防・救急、交通安全、環境保全）

● 豊かで活力ある産業の振興（農林業の振興、水産業の振興）

興、商工業の振興、観光・レクリエーションの振興)

●健康で生きがいのある福祉の町づくり(福祉の向上、医療・保健の向上)

●豊かな人間性をはぐくむ教育、文化の高揚(幼児教育の充実、義務教育の充実、高等学校教育の充実、大学等高等教育の振興、社会教育の充実、社会体育の充実、文化の高揚)

●住民に密着した地域振興対策事業の推進(玄海町地域振興基金、公共事業の推進)

●計画的な行財政の推進(行政の近代化、財政の健全化、広

域行政の円滑化)

こうした計画に基づくまちづくりの結果、上水道が整備されたほか、基幹産業である農業・漁業の振興策が実現しました。具体的には、農道の整備、飼料用冷凍冷蔵庫・碎氷施設・荷さばき施設などの水産施設整備、産業会館の建設など多様な産業施設が充実し、また、社会体育館・多目的町民会館・総合運動場・野球場が整備されるなど、文化・スポーツ施設の整備が進み、町民の皆さんによる健康づ

くりも活発なものとなりました。

新総合計画の策定

二十一世紀を目前に控えた平成七年から八年にかけて、町は

日ごろ各地区から寄せられるまちづくりの要望に加え、町民の皆さんを対象とした意識調査を再度実施し、要望を集約しました。その結果、町民の皆さんが玄海町の将来像として、「自然に恵まれた静かな住みよい町」「生活環境を整備した美しい町」「高齢者や障害者を大切にする福祉

の町」を思い描き、自然環境の保全と活用、生活環境の整備、

教育・人材育成、雇用の場の創出、産業振興などに関する取り組みを求めていることが分かりました。

平成八年、玄海町総合開発審議会などでの検討を経て、「玄海町新総合計画」が策定されました。この計画では、「夢創造、輝く未来・玄海町」を将来像とし、「豊かで住みよい魅力と活力のある町」の実現が目指され、「恵まれた自然と豊かな自然景観を保全しつつ、若者が郷土を

[玄海町 まちづくりの歩み]

町民の皆さんの要望
▼生活基盤の整備
▼産業振興

昭和34年

玄海町建設計画

まちづくりの基本理念

- 生産基盤の強化・拡充による町民所得の向上
- 生活文化水準の高揚および福祉の増進

主な施策の方向性

[安定計画] 行政組織・行政事務の合理化/生産基盤の整備
[発展計画] 産業振興/人的質の向上

まちづくりの成果

- 教育・福祉施設を含む生活基盤整備の進展
- 町民の皆さんの暮らしやすさへの思いの深まり

町民の皆さんの要望

- ▼産業基盤の確立
- ▼生活環境の整備
- ▼教育文化施設の整備と人づくり

昭和61年

玄海町総合開発計画

まちづくりの基本理念

- 青い海と豊かな緑が調和した活力のある産業の町
- 生活環境の充実した住みよい福祉の町
- 人間性豊かで郷土愛に燃える教育文化の町

主な施策の方向性

町発展への基礎的條件の整備/快適で安全な生活環境の創出/産業の振興/福祉の町づくり/教育・文化の高揚/住民に密着した地域振興/計画的な行財政の推進

まちづくりの成果

- 上水道の整備
- 基幹産業を中心とした多様な産業施設の充実
- 文化・スポーツ施設の整備

町民の皆さんの要望

- ▼自然環境の保全と活用
- ▼生活環境の整備
- ▼教育・人材育成
- ▼雇用の場の創出
- ▼産業振興

平成8年

玄海町新総合計画

まちづくりの基本理念

- 快適で安全な住みこごちのよいまちづくり
- 豊かさやゆとりが実感できるまちづくり
- 健やかに生きがいをもって暮らせるまちづくり
- 豊かな人間性と創造力を育むまちづくり
- 住民と行政が創意と汗で拓くまちづくり

主な施策の方向性

地域産業の体質強化と基幹産業づくり/新時代情報通信を活用した地域総合活性化計画の推進/地域資源の保全・活用と観光拠点開発の推進/中心市街地の再生整備と町の顔づくり/生き生きとした人づくりと地域活性化の推進

まちづくりの成果

- 教育・福祉施設の機能向上
- 町民の皆さんの暮らしやすさへの満足度の向上

町民の皆さんの要望

- ▼下水道の整備
- ▼道路の質的向上
- ▼観光振興

将来ビジョン

主な施策展開
下水道の整備/歩道整備や幹線へのアクセス道路の整備/観光振興

愛し、自信と誇りをもつてく
せる町づくり」が志向されま
した。さらに、この目標を達成す
るために、五つの「まちづくり
のテーマ」が示されました。

● 快適で安全な住みここのよ
いまちづくり（自然環境の保
全と地域資源の活用、土地利
用・水利用の推進、交通・情
報通信基盤の整備、快適な生
活環境の整備、住民生活の安
全確保）

● 豊かさゆとりが実感できる
まちづくり（農業の振興、水
産業の振興、商工業の振興、
観光・レクリエーションの振
興）

● 健やかに生きがいをもって暮
らせるまちづくり（地域福祉
の推進、高齢者施策の推進、
児童・母（父）子・障害者福
祉の推進、保健医療の充実）

● 豊かな人間性と創造力を育む
まちづくり（学校教育の充実
生涯学習の推進、地域文化の
振興、スポーツ・レクリエー
ションの充実）

● 住民と行政が創意と汗で拓く
まちづくり（地域交流の推進、
住民自治と開かれた行政の推

進、計画的・効率的な行財政
の運営）

さらに、基本理念を実現する
上で特に重要な施策として、五
つの重点プロジェクトが示され
ました。

● 地域産業の体質強化と基幹産
業づくり（玄海ブランド浸透
作戦の推進、農水産物加工に
よる特産品開発と一・五次産
業の育成、中核農家・漁家の
育成支援と企業的経営システ
ムの推進、研修派遣事業・異
業種交流事業の推進）

● 新時代情報通信を活用した地
域総合活性化計画の推進（地
域情報化五カ年計画の策定、
地域情報化浸透作戦の展開、
地域情報ステーションの整備、
インターネット玄海町ホーム
ページによる情報発信の推進、
「デジタル工房村」の開発整備
とマルチメディア新産業の
育成・誘致、遠隔医療・遠隔
健康管理など地域住民生活へ
の情報通信の活用）

● 地域資源の保全・活用と観光
拠点開発の推進（水資源の確
保と水域環境の浄化の推進、
憩いの広場を核とする「合宿

の里」構想の推進、福祉セン
ターの再開発と三島公園の有
効活用、天狗岳周辺の一体的
な観光・リゾート開発、「道
の駅」の誘致）

● 中心市街地の再生整備と町の
顔づくり（中心市街地の町並
み修復と新市街地の計画的整
備、地域商業の再編成と新商
業核の形成、中心市街地にお
ける町の顔づくりの推進）

● 生き生きとした人づくりと地
域活性化の推進（世代間・地
域間交流の推進と人の輪づく
り、高齢者の生きがい事業の
推進、地域イベントによる町
の活性化）

こうした計画に基づくまちづ
くりの結果、福祉センター機能
の拡充、玄海町保育所の整備、
特別養護老人ホームの機能充実
が図られるなど、町民の皆さん
の暮らしやすさへの満足度が向
上しました。また、観光振興が
今後のまちづくりにおける重要
な課題として注目を浴びるよう
になり、その拠点として、九州
電力の玄海原子力発電所PR館
「玄海エネルギーパーク」が平
成十二年に全面改築され、玄海

町の観光振興との連携が図られ
ています。

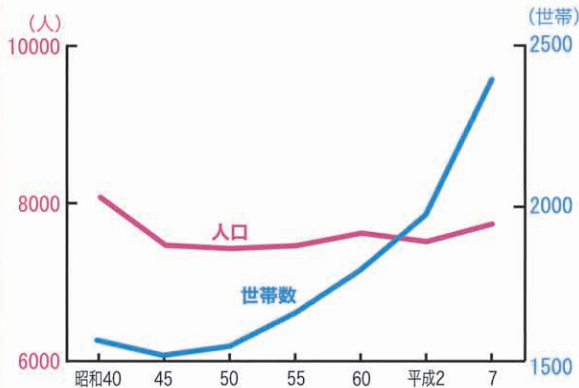
玄海町における まちづくりの将来ビジョン

現在、平成十七年度を目標年
次とする玄海町新総合計画に基
づくまちづくりが進められてい
ます。併せて、町では町民の皆
さんからまちづくりに対する要
望の把握に努めています。玄海
町では、町民の皆さんと町長が
話をする機会として「住民懇談
会」が設けられました。町長は
町内の全二十七地区を回り、町
民の皆さんのまちづくりに対す
る要望や意見を直接聞きまし
た。今年度の住民懇談会では、下
水道の整備や道路の質的向上（歩
道整備、幹線へのアクセス道路
の整備）などが強く求められま
した。また、商工会などを通じ
て、民間事業者の皆さんから観
光振興に対する要望が寄せられ
ています。これらの要望は、三
年ごとに見直される事業計画で
具体策が検討されます。
新世紀を迎え、住民本位のま
ちづくりが進められていきます。

玄海町

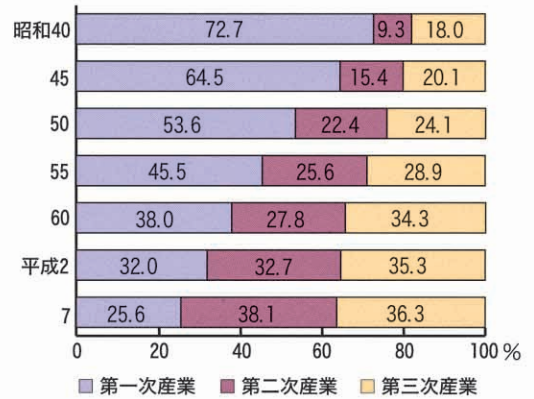
■問い合わせ先/玄海町企画課 電話0955-52-2111
玄海町ホームページURL <http://www.saganet.ne.jp/genkai/>

人口と世帯数の推移



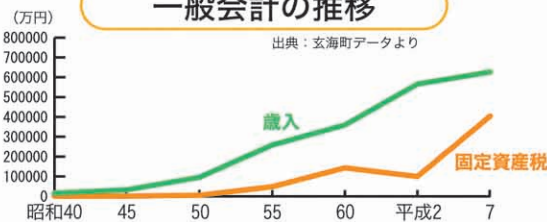
出典：国勢調査データより

就業構造の推移



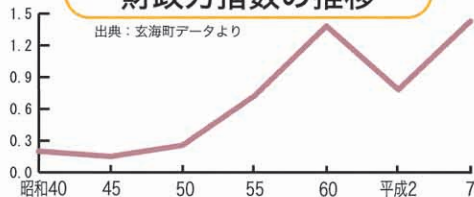
出典：国勢調査データより

一般会計の推移



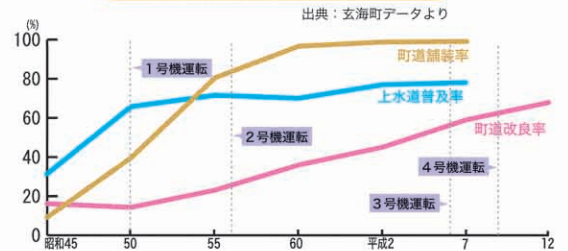
出典：玄海町データより

財政力指数の推移



出典：玄海町データより

町道整備状況、上水道普及率の推移



出典：玄海町データより

玄海町の原子力の歩み小史

- 昭和40年 佐賀県から建設計画の申し入れ
- 昭和45年 1号機電源開発調整審議会承認 (第52回)
- 昭和46年 1号機着工
- 昭和49年 2号機電源開発調整審議会承認 (第65回)
- 昭和50年 1号機営業運転開始
- 昭和51年 2号機着工
- 昭和56年 2号機営業運転開始
- 昭和57年 3号機、4号機電源開発調整審議会承認 (第89回)
- 昭和60年 3号機、4号機着工
- 平成6年 3号機営業運転開始
- 平成9年 4号機営業運転開始

[発電所概要]

発電所名/玄海原子力発電所 (九州電力)
所在地/佐賀県東松浦郡玄海町

- 1号 出力/55.9万キロワット (原子力) 運転開始/昭和50年10月
- 2号 出力/55.9万キロワット (原子力) 運転開始/昭和56年3月
- 3号 出力/118万キロワット (原子力) 運転開始/平成6年3月
- 4号 出力/118万キロワット (原子力) 運転開始/平成9年7月

段階的なまちづくりで 地域の魅力が向上

生活に身近なところ からの道路整備

玄海町の幹線道路としては、海岸沿いを南北に走る国道204号と、これに並行、交差する三路線の県道が挙げられます。生活道路としては、幹線道路から分岐する一五六路線の町道があります。

玄海町では昭和四十一年に発電所の誘致が決議されました。当時、町民の皆さんは各地区間を結ぶような、生活に身近な道路の整備を強く望みました。町長をはじめ町の行政担当者からも、発電所の立地を契機とした道路整備の促進が期待されました。昭和五十年に発電所が営業運転を開始し、前後して電源三法交付金の活用などにより道路整備が急速に進められました。まず町民の皆さんの生活に身近な町道の整備が最優先で進められ、次に他地域と連絡する幹線道路の整備が行われました。当

時の町道は幅員が狭く、舗装率は九・二%（昭和四十五年）でしたが、現在では町道の舗装率はほぼ一〇〇%になっています。生活道路の利便性が高まり、町民の皆さんの日常生活についての満足度も向上しています。また、農道や防災道路の整備も行われています。農道の整備は3号機、4号機の増設を契機として特に進められ、農地までのアプローチが良くなり、農業機械の搬入などが容易になりました。また、平成八年から防災道路の整備が進められ、大規模災害全般に対する住民の安全確保が図られつつあります。

今年度の住民懇談会では、町内の道路全般に対して改良等の整備がさらに求められました。こうした要望にこたえ、今後、幅員の拡大や急勾配・急カーブの解消、歩道の整備などが進められます。道路の利便性をさらに高めるとともに、安全性や快適性の向上が図られています。

道路整備の新しい視点の一つとして、観光資源開発が挙げられています。玄海町商工会を中心に観光振興を求める声が強くなり、町では天狗岳など観光拠点に通じる道路の拡幅や案内板の設置などを積極的に進めていくこととしています。

飲料水の安定確保

玄海町の水道整備は、町民の皆さんの強い要望で昭和三十一年の合併当時から進められてきました。昭和三十二年から有浦地区で簡易水道による給水が開始されて以降、町内の各地区に簡易水道が整備され、拡張整備が行われてきました。一方で、依然として井戸水に頼っている地区もあり、また渇水期には断水することもありました。飲料水の安定的な確保に対する町民の皆さんの要望はさらに強いものとなったのです。玄海町は「生活用水の安定供給とともに公共の福祉を増進すること」を目的として上水道事業に着手。昭和六十二年に上水道と簡易水道を併用した水道事業が開始されました。昭和六十三年には電源立

地促進対策交付金を活用した事業により「新田浄水場・貯水池」が整備され、渇水期でも安定的に飲料水を確保できるようになりました。その後も、事業区域の拡大や施設・設備の充実が継続的に進められています。平成十二年度までに上水道普及率は七八・〇%に向上しており、さらに平成十七年度までに普及率一〇〇%を実現する計画です。玄海町では平成十三年度から下水道整備事業に着手することとなっています。下水道の供用開始に伴い上水の使用量も多くなると想定されており、普及率の向上とともに、水源の確保も進められます。



新田貯水池

いち早く取り組んだ 高齢者福祉

玄海町の特別養護老人ホーム「玄海園」は、電源立地促進対策交付金などを活用して昭和五十六年に開園しました。各居室

には合計で五〇床（昭和五十九年に七〇床に増床）が設けられ、そのほか温泉を利用した特殊浴槽やリハビリテーションルームが設置されています。同施設の整備は先駆的であり、町内外の皆さんから広く利用されました。高齢者福祉に関し広域の拠点として役割を果たしたのです。その後、ホームヘルパー制度の導入（昭和五十年）、デイ・サービスセンター「玄海園」の整備（平成四年）、「玄海町在宅介護支援センター」の設置（平成七年度）などが行われ、高齢者福祉の充実が図られました。

農業、漁業の基盤整備

玄海町の基幹産業は農畜産業と漁業です。農業の基幹作物は水稲、ハウスでのミカンやイチゴの栽培であり、畜産業は牛の肥育（子牛を購入し、育て、出荷する）、繁殖及び酪農・養豚です。以前は露地ミカンの栽培が活発でしたが、より付加価値の高い農畜産業に二十年ほど前から取り組んできました。他方で、農業環境をより良くするため、土地改良事業など農業基盤整備が実施されてきました。農

業の機械化などを進める上でこの整備は必要であり、生産者の皆さんの要望にこたえてきたのです。発電所の3号機、4号機の増設に当たっては、建設残土を利用し二十八ヘクタールの土地改良事業が行われました。こ

れは、普恩寺集落の小規模な湿田を対象に実施され、一区画当たりの農地面積の拡大、農業用水の安定的な確保、水はけの改良などが行われました。従来は一区画当たりの農地面積が十アール程度でしたが、四十アール程度に改良されました。これにより大型の乗用機械が導入できるようになり、労力が大幅に縮減されました。

漁業の柱となっているのはマグイやブリの養殖です。そのほかフグの養殖量も増加しており、発展段階にあると言えます。玄界灘で育てられた玄海町の魚は良質であり、高級品として市場で取り引きされています。水産業の発展を図るため、電源三法交付金などを活用し、冷蔵庫や荷さばき施設、オイルフェンスなど漁業基盤の整備が進められてきました。一連の整備は、地域経済の基盤である水産業の発

展に貢献しています。



九州電力が建設中の大規模温室
面積1,300㎡、天井高18mの大規模温室。
熱帯植物園、ヨーロッパ庭園、棚田庭園などを備え今春オープン予定です。

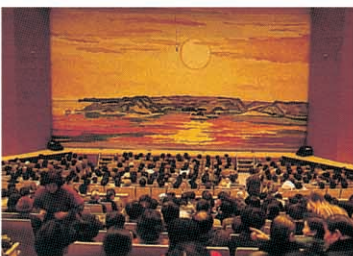
廃熱利用温室による 基幹産業の振興

九州電力では発電所と地域との共生施策の一環として、発電所の廃熱を利用した温室を昭和五十七年から設置しています。

温室は熱帯植物育成ハウス、水気耕栽培ハウス、野菜・草花育苗ハウスの三棟があります。このうち野菜・草花育苗ハウスでは花の試験栽培が進められており、福岡や唐津への出荷を念頭に置いて将来の産業として期待されています。同ハウスはサツマイモやジャガイモ、野菜、種もみの発芽促進にも利用されており、農家の皆さんに無料開放されています。廃熱利用温室は地域の基幹産業である農業の振興に寄与しています。

「心の豊かさ」の充実

生活基盤や福祉施設の整備が進み、町民の皆さんからは文化やスポーツの振興が求められるようになりました。町では電源立地促進対策交付金などを活用し、「玄海町町民会館」、「玄海町社会体育館」、「玄海町総合運動場」など各種の施設を整備しました。町民会館には八一人収容の文化ホール、図書館などが設置され、平成十一年度には延べ四六七〇〇人が利用しました。社会体育館には観覧席のある競技場、柔剣道場などがあります。総合運動場には四〇メートルトラックなどが設置され、照明施設も備えています。この三施設の整備は町民の皆さんに特に喜ばれ、また町外からの利用も多くなっています。こ



町民会館「文化ホール」

れらは一体的に整備されており、文化・スポーツ・レクリエーションの広域的な拠点として利用されています。

若者の定着に向けた住宅整備

平成十二年、玄海町では地区が一つ増え、全体で二十七地区となりました。これは、総戸数五十二戸、町営の集合住宅「普恩寺団地」が建設されたことによりです。また、これに先立ち、同じく町営の「平尾団地」（総戸数二十四戸）も平成五年に建設されています。これら町営住宅の整備は、若者の定住促進を図る施策の一環として進められました。デザインに趣向をこらし、若者をはじめ町民の皆さんから好評を得ています。若い世代の町内への定着に寄与し、玄



平尾団地

海町内に居住していた若い夫婦が移り住むケースも多くなっています。

原子力発電所と連携した観光開発

かねてより、商工会などを通じて、民間事業者の方から地域の産品を販売する施設の整備が求められていました。また、玄海町新総合計画でも、観光振興の課題として「(略)土産物の提供など、観光客を受け入れるためのさまざまな条件整備が立ち遅れ、観光客を積極的に誘致する体制が整っていない」とされていました。平成十二年三月、九州電力がそれまでのPR館を改築するとともに周辺開発を行い、「玄海エネルギーパーク」がオープンしました。エネルギーパークと町の観光振興施策との連携強化、機能補完を検討していた玄海町の要望にこたえ、その一角に物産販売施設「どっ来い承(どっこいしょ)」が併せて整備されました。「玄海エネルギーパーク物産販売所施設利用組合」が経営しています。観光や基幹産業の振興拠点として、大いに期待されています。



玄海エネルギーパーク物産販売施設「どっ来い承」

漁協婦人部「フレッシュ会」の水産加工

仮屋漁業協同組合の婦人グループ「フレッシュ会」では、タライやホタテを使った加工品を販売しています。九州電力「玄海エネルギーパーク」の一角にある物産販売施設や、電源地域振興センターが年一回幕張メッセで開催している「電気ふるさとじまん市」でも販売され、好評を得ています。

フレッシュ会は、仮屋漁業協同組合鯛部会婦人部のメンバーで構成され、現在六人の皆さんが活動に参加しています。フレッシュ会の活動は平成四年から

始められました。町から「特産品を開発しましょう」との提案があり、これにフレッシュ会がこたえたのです。まず、新鮮でおいしい魚を最大限に生かせる商品の開発が着手されました。メンバーが町の公民館に集まり、佐賀県水産振興センターからの技術指導や設備提供を受けて行われました。

加工品の販売が始まったのは平成九年からです。また、販売の開始に合わせて加工施設が整備されました。その後も、電気ふるさとじまん市の中で実施されている「相談会」などの機会を生かして商品開発を進め、今までに六種類の加工品が販売されました。

現在は、生産量の拡大や販路の確保など課題がいくつかありますが、フレッシュ会の取り組みはまだ始まったばかりです。新しいことに取り組むメンバーの表情は明るく、元気いっぱいです。「フレッシュ会をお手本に、加工への取り組みを活性化していきたい」(町産業課前田係長)と、町も大いに期待しています。



玄海町商工会 西尾^{にしお}達也^{たつや}さん

玄海町商工会の経営指導員。〓地域が良くならなければ商工業も良くならない、との思いから玄海町観光物産協会の運営にも精力的に取り組んでいる。

玄海町観光物産協会は 公的な井戸端会議の場

「玄海町観光物産協会」は平成十一年七月、観光と物産を車の両輪にまちおこしに挑む組織として設立されました。活発な話し合いを行おうと会員の門戸を広げた結果、一般の方も大勢集まりました。設立趣意書では、協会を「アイデアを出し合う井戸端会議の場であり、公的な意見・協議・調整の場となり、ブランドとアクション」を起す組織である」としています。

何年か前から、農協や漁協の人たちと会うたびに「玄海町に観光協会がほしい」と話し合っていたんです。そんな時、九州電力から役場を通じて、原子力発電所の新しいPR施設の中に地域の物産を販売する店を出さないか、という投げかけがあったのです。「これはチャンスだ」と思いました。農協、漁協、商工会が一枚岩となってやろう。物産の開発と観光は切り離せないから、いつそ販売所と観光協

会の設立を並行して考えよう。それなら単なる観光協会ではなく、観光と物産を一元的に考える組織にしよう。たいへん熱が入りました。

観光物産協会を「公的な井戸端会議の場」というのが、わたしたちの共通認識でした。農協、漁協、商工会、それに一般の町民と一緒に知恵を出し合う場所にしようということ。そこから町にいろいろな提案をしていく。そのためにも協会を民間主導で設立しました。年会費を一口千円と安くして、たくさんの方の会員を募りました。個人・団体併せて一八七の会員が集まりました。会員からは「自由にアイデアを出せるようになった」「提案に対する反応や結果が目に見えるようになった」、など良い評価を得ています。

物産販売所の経営は、協会が推進母体となって設立した任意組合「玄海エネルギーパーク物産販売所施設利用組合」で行っています。協会から切り離したのは、利益追求の姿勢を明確にするためです。協会は住民のアイデアや意見、提案を引き出し企画を立案し、それを事業化し

ていく、一種のシンクタンクと位置付けました。

昨年三月、物産販売所「どっ来い承(どっこいしよ)」が、「玄海エネルギーパーク」のオープンと同時に営業を開始。当初、店の棚にはよその町の商品がかなり並んでいましたが、現在では加工品の開発が進み、玄海町の特産品も増えています。売り上げも順調で毎月一千万円を超えています。

「玄海エネルギーパーク」は入場無料です。芝生広場やじゃぶじゃぶ池、北欧の遊具などを配置した「太陽の広場」は子供連れのお客さんでいつもにぎやかです。集客も当初予想を大きく上回って、これまでに三十五万人を超えました。町の経済への波及効果は計り知れません。

今後の課題は観光客向けの宿泊施設や飲食施設を充実させていくことです。玄海町を家族みんなで何度でも訪れ、楽しんでくつろげる行楽地としていく計画です。人づくりに努め、井戸端会議から積極的にまちおこしの提案をしていきます。



玄海町建設課長 **上田 市雄**さん

玄海町建設課長。「玄海町新総合計画」が策定された当時の企画課長であり、メンバーの中心として新総合計画を取りまとめた。

まちづくりのキーワードは コミュニケーション

玄海町では現在、平成八年度からスタートした「玄海町新総合計画」によるまちづくりを進めています。当時企画課長だった上田さんは、まちづくりに対する要望を肌で感じるために町民の皆さんとひざを交えて議論しました。多くの人が満足する計画を作るためには、さまざまな人が策定に参加する必要があると考えたのです。

最も大事なことは理想のまちづくりを実現することであり、総合計画はそのシナリオにすぎません。しかしシナリオが間違っていれば、計画通りに進んでも結果には誰も満足しません。玄海町は常に町民の皆さんの意見や要望を重視してきました。これまでも組合や地区などを通じて意見や要望を聴き行政施策に反映してきましたが、より多くの方から意見を聴くために地

域に飛び込んでみました。こうした新しい試みに対して、町民の皆さんも積極的にこたえてくれました。若い人たちを中心に話をしましたが、玄海町の将来について真剣に議論する姿が印象的でした。その時に語ってもらった「夢」がまちづくりに活力を与えてくれています。計画期間の十年間でどこまで進めることができるか不安な面もありましたが、多少背伸びをするくらいでないとは活気は生まれません。理想に向けて一歩ずつ努力をする。計画の実施に当たり積み残しが生じたとしても、次代のまちづくりのためのステップにしよう、と割り切りました。町民の皆さんの意見や要望をこれまで以上に反映し、また行政の考えも十分に盛り込んだ計画とすることができました。

総合計画の策定に当たって打ち出した「住民(民間)主導」の姿勢が、さまざまな場面で徐々に発揮されています。観光物産協会の立ち上げや、協会によるイベントの運営はその萌芽と言えます。

例えば、何らかの取り組みを立ち上げる場合などには、ノウハウや資金の不足を補うために行政主導で軌道に乗せることも必要です。しかし、世の中の変化や多様なニーズに対応し取り組みを継続していくためには、町民の皆さんの積極的な関与が不可欠です。官民が共同でまちづくりを推進し、これからの玄海町をつくり上げていくのです。総合計画の計画期間も半ばを過ぎ、みんなで作った計画が実現しつつあります。上水道や町道、文化・スポーツ施設の整備も進んできました。

今年度の初めに、改めて町民の皆さんから意見や要望を聴くための住民懇談会を実施し、町長が全地区を回りました。これは総合計画によるまちづくりの「仕上げ」に効果があるばかりでなく、次代のまちづくりにも生かされます。まちづくりを進めていく上で大切なことは、町民の皆さんとのコミュニケーションであると思っています。



九州経済産業局
電力・ガス事業部長

奥田 おくだ **昌宏** まさひろ さん

新世紀を迎え 新たな交流が広がる 玄海町を応援します

現在、九州管内の発電電力量の約四八パーセントを原子力発電が担っています。全国平均は約三五パーセントですから、かなり高い比率となっています。その中でも玄海原子力発電所は、四基で約三五〇万キロワットの設備を擁し、電力の安定供給と二酸化炭素排出量の削減に、大きく貢献しています。初号機の運転開始から二十五年が経過し、全国的にも歴史のある発電所であり、地元の皆様のご理解とご協力に、心から感謝しています。

玄海町は電源三法交付金を有効に活用して、着実にまちづくりを進めてきました。生活に身

近などところからの道路整備、飲料水の安定確保、先駆的な高齢者福祉など、町民ニーズを踏まえ、数次にわたる総合計画の改訂・実施を通じて、広域のかつ計画的に取り組まれてきました。玄海町における今後のまちづくりの一つとして、昨今、積極的な観光振興が考えられています。一般に、地域の振興を考えていくに当たっては、住宅事情の改善や産業振興による雇用の創出を通じた常住人口を増やしていくことや、観光振興策などを通じて交流人口を増やしていくということが重要です。玄海町においても昨年三月には、九州電力の「玄海エネルギーパーク」がリニューアル・オープンし、物産販売施設も併設され、来客数も倍増しています。この施設は、単なる販売施設にとどまることなく、地元の皆さんの特産品開発への積極的な機運の高まりに結び付くものとなっています。観光振興を図っていく上で貴重な集客拠点の一つとして、玄海町における新世紀の飛躍へと、結び付けていって欲しいと思います。

九州経済産業局では、管内の電源地域間における交流の促進と、電源地域に対する消費者の理解の促進について、それぞれ独自の施策を展開しています。

前者については、管内の電源地域の振興に携わる方々が集まり、共通した課題について意見・情報を交換し合う場として、「電気のあるさと交流会」を開催しています。平成三年度から毎年行っており、今年度は長崎県松浦市において、観光による交流の推進に関し活発な議論が交わされました。後者については、原子力広報を兼ねて、電気の重要性和電源地域の社会的役割について、電力消費地の皆さんに認識を深めていただくため、福岡市で「電気のあるさとあれこれ見本市」という物産展を開催しました。

このほか、当局では、毎年十月を「エナコロジーマンス」と称して、「エネルギー」と「エコロジー」にかかわるイベントなどを集中的に実施し、皆さんに、エネルギーと環境について考えていただく場も提供しています。今後とも、こうした活動を通じて、広く電源地域の振興等を応援していきたいと思っています。